

南九州におけるゆで豆用ラッカセイの栽培技術

第1報 播種期とトンネル資材について

川上 求・坂元義明・富山一男 (宮崎県総合農業試験場都城支場)

Motomu KAWAKAMI, Yoshiaki SAKAMOTO and Kazuo TOMIYAMA : Cultivation Technics of Young Peanut for Boiling in Southern Kyushu

1. Seeding Time and Covering Material of Tunnels

ラッカセイの用途は煎り豆が主体であるが、近年、未熟な若莢を塩ゆでして食べる方法が一般にもかなり普及し、新しい需要として期待されている。また、生産時期が早いほど市場価格が高いことから、早出し安定栽培技術の確立が望まれている。そこで、トンネル栽培での播種期と資材について検討し、有孔フィルムを使用した2月下旬播種が有効と考えられたので、その概要を報告する。

1. 試験方法

試験は1985年から'88年の4か年にわたり実施した。いずれの年次でも、播種は2月下旬から3月中旬にかけて3~4回行った。生育前期は間口1.0mのトンネルにポリマルチ(厚さ0.02m)を併用した保温方式をとり、トンネル資材としてはビニールフィルム(厚さ0.075mm)を対照として、有孔フィルム(厚さ0.075mm、開孔率3%)、通気フィルム(厚さ0.075mm、空隙率10%)の3区を設置した。いずれの年次でも、トンネルは、播種直後から外気温(平均気温)がほぼ16℃になる4月下旬までの期間設置した。品種は、ナカテユタカとタチマサリを供試した。栽植様式は、畦幅120cm(2条)、株間18cmとし、施肥量(kg/a)は、N:0.2、P₂O₅:1.0、K₂O:1.0で、全量基肥として施用した。

2. 結果及び考察

気温特性からみたトンネル資材の実用性:各フィルムとも、トンネル内の最低気温は外気温より低めに推移した。特に、2月下旬から3月上旬にかけて-5℃前後に冷え込む日があったが、3月上旬以降、最低地温は13℃以上に保たれた。

最高気温は、ビニールフィルムを用いると晴天日は40℃以上になる日もみられ、日中裾を上げ換気が必要とした。一方、有孔フィルム、通気フィルムでは密閉状態でも最高気温は30℃前後の生育適温で推移し、換気作業の

必要がなく省力的であった。いずれの資材とも2月下旬播種でも出芽は良好であり、その後の生育にも支障はみられなかった。保温性、省力性に加え経済性を考慮すると、有孔フィルムの実用性が高いと考えられる。

収穫適期:開花期後60日収穫での収量は、30~50kg/aで不安定であった。開花期後70日収穫では50kg/a以上となり、屑莢の割合も減少した。また、開花期後80日にはゆで豆用としてはやや過熟莢もみられた。このようなことから、開花期後70日ころが収穫適期と考えられた。

播種期と収量:ナカテユタカでは、トンネルを用いて2月下旬に播種すると、年次変動はあったがおおむね4月中旬に開花期をむかえ、6月下旬には収穫可能となった。また、タチマサリの3月上旬播種でも、6月下旬収穫が可能であった。

播種期と収量との関係は、3月中旬播種が最も莢数が多く多収となった。しかし、2月下旬、3月上旬播種でも50~55kg/aの収量が確保された。

以上のことから、トンネルとマルチを併用すれば2月下旬からの播種が可能である。市場価格の高い6月下旬には収穫でき、50kg/a程度の収量が期待できる。トンネル資材としては、保温性、省力性、及び経済性の面から有孔フィルムの実用性が高いと考えられた。今後さらに、品種、栽植密度等の検討を行う予定である。

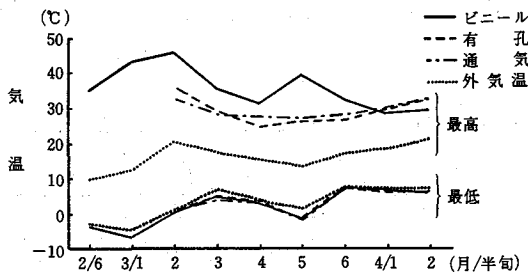
第1表 播種期及びトンネル資材と収量

播種期 月・旬	ビニール		有孔		通気		収穫期 月・旬
	株当 莢数	莢重 (kg/a)	株当 莢数	莢重 (kg/a)	株当 莢数	莢重 (kg/a)	
2下	16.2	56.2	14.2	50.7	-	-	6下~7上
3上	16.9	56.0	17.8	58.8	18.3	61.1	7上~7中
3中	17.7	59.8	18.0	61.1	20.3	55.7	7中
3下	15.3	49.4	18.0	54.9	-	-	7中~7下

注) 4か年平均 品種はナカテユタカ、開花期後70日頃に収穫

第2表 開花期後日数と収量 (1988)

開花期後 日数	ナカテユタカ				タチマサリ			
	莢重 (kg/a)	屑重 (kg/a)	屑重割 合(%)	株当 莢数	莢重 (kg/a)	屑重 (kg/a)	屑重割 合(%)	株当 莢数
60日	39.3	9.6	19.6	14.0	47.2	7.6	13.9	15.0
70日	61.1	5.3	8.0	17.9	60.1	3.7	5.8	19.9
80日	67.5	6.1	8.3	17.3	-	-	-	-



第1図 トンネル資材と気温 (1986)